

「一人じゃない勇氣」

福岡ほの香

皆さんは小児がんという言葉を知っていますか。私は小児がんの中の脳腫瘍という病気になり、手術、化学療法（「化学療法」）、放射線治療（「放射線治療」）をして治る事ができました。

15歳未満でがんを発症する子は、毎年2千人ぐらい。今、抗がん剤の進歩で7割が治るようになりました。小児がんを経験した人は全国に10万人ほどいるけれど、元気になった子どもたちが後遺症や劣等感を抱え、復学やしゅうしょく（「就職」）で厳しい現実がある事は知られていません。

私は月に2回インターネットのテレビ会議システムを使って、“ネットでeクラス”という遠い所にいるいろんな人達と話をし、ホームルームをしています。

「みんなで言葉遊びをしようか、じゃあテレビで連想される言葉は。」

「難しいなー。えっと、ドラマ。」

「ドラマと言えば、大河ドラマ“江”。」

「ひろみ。」

いつも皆で大笑いです。これはがん経験の子が自分のことを話したり、勉強を教えてもらえる所です。私はこの会に入って、病気になった子どもたちがいろんな後遺症のせいで学校に行けずにつらい思いをしたりしているんだと知りました。

「僕たちは同志というか、励ましてくれる仲間です。」

と、18歳のお兄さんが話しをしてくれました。学校の友達も大好きだけど、“ネットでeクラス”の人たちも安心できる大切な仲間です。

“ネットでeクラス”を紹介したDVDができました。

「厳しい治療（「治療」）を乗り越えた子どもたちに受け入れられる社会になっていない。彼らに居場所（「居場所」）を作ってあげたい。」

とのおもいから、eクラスが出来ました。

DVDの表紙には仲間と私の写真がうつっています。中の映像にもHRで笑っている私が映っていて、見てうれしくなりました。今、病気で苦しんで外に出られない子や病気が治ったけど一人で辛い思いをしている子がこのDVDを見て仲間になってくれたらと思いました。お母さんと、

「ほのかが今、元気であること、“ネットでeクラス”で楽しく話す事で、はげまされる子がいるってすごいよね。」と話をしました。

私は、eクラスで学習支援を受けています。病気の後遺症で、色々やる事が遅く、字を書くのも遅いので、学校では授業についていくのが大変です。eクラスでは、病気の事を知っていて、自分のペースで教えてもらえるので安心して勉強できます。

私はまだ社会の現状とか厳しいことはよく分かりません。今は、勉強を教えてもらった

り、助けてもらってばかりです。私が参加したDVDで、たくさんの方が障害のある人、後遺症で苦しむ人がいっぱいいる事、学校に行けない子がいっぱいいる事を知ってもらえたらいいなと思います。いろいろ自信がない私だけ、いつか苦しんでいる子たちを助けさせる人になりたいです。

社会が病気の後遺症に苦しんでいる子どもたちに優しくなって、eクラスみたいなシステムがもっともっとたくさんできたらと思います。

入院中、病院のロビーでお母さんと一緒に家へ帰れる子たちをずっと見ていたことを覚えています。私は家にいられる事、学校に普通に通える事が幸せだと知っています。

いたい治りょう（「痛い治療」）や恐かった手術をつらいことだと思っていけません。つらい時にたくさんの方が優しくしてくれた思い出がいっぱいあって、楽しいこととして覚えているからです。

これから、私も皆さんもつらい事はいっぱいあると思います。でも、自分は幸せなんだと考えて、自分は一人ではないんだ、助けてくれる人は絶対いるんだと頑張りたいです。きっと強くなって乗り越えられると思います。